



島田市の教育

「平成30年度全国学力・学習状況調査」からみえる島田市の子供

1 調査の概要

◇目的

- ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、授業改善を図る。
- ・本調査の結果を子供への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇実施日 平成30年4月17日（火）

◇実施対象 島田市内全ての小学校6年生と中学校3年生

◇調査内容

- ・教科調査（国語、算数・数学、理科）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙



2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

＜調査結果(平均正答率)を領域別にまとめました。＞

＜平均正答率＞

全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、子供の数で割った値



＜記号の見方＞ 全国平均正答率と比べて

- ◎：+3ポイント以上 ○：～+3ポイントまで □：同じ
 △：～-3ポイントまで ▲：-3ポイント以下

国語

※小学校は、A問題が全国と比べわずかに低い正答率となった。
中学校は全国と比べ高い正答率となった。

学校種	問題別	全体	領域別			
			話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
小学校	A問題	▲	△	△	○	▲
	B問題	○	○	○	△	
中学校	A問題	○	○	○	○	○
	B問題	○	□	△	○	△

小学校国語 ☆成果 ★課題

- ☆物語文の登場人物の心情について情景描写を基に捉えることができます。
- ☆話し手の意図を捉えながら聞く力がついています。
- ★漢字や語句の意味を理解する力を高めていく必要があります。



中学校国語 ☆成果 ★課題

- ☆古典に表れたものの見方や考え方を理解することについては、良い結果でした。
- ☆段落が文章全体に果たす役割や文章とグラフとの関係を考えながら、内容を捉えることについては、良い結果でした。
- ★相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことに課題が見られました。

算数・数学

※小学校は全体としては全国と比べて（-2ポイント差程度）の正答率だった。
中学校は全国と比べて高い正答率となった。

学校種	問題別	全体	領域別			
			数と計算	量と測定	図形	数量関係
小学校	A問題	▲	▲	○	○	△
	B問題	▲	△	△	▲	△
		全体	数と式	図形	関数	資料の活用
中学校	A問題	○	△	○	△	◎
	B問題	○	△	○	○	○

小学校算数 ☆成果 ★課題

- ☆計算、測定などの基本的な技能が身についています。
- ★数式や算数用語の意味の理解に課題が見られます。
- ★根拠を持って考え、筋道を立てて説明する力に課題が見られます。

中学校数学 ☆成果 ★課題



- ☆「資料の活用」において、基本的な知識が身につけており、図や表を使って問題を解決することができます。
- ☆解き方や考え方がわかるように書く生徒の割合が高いです。
- ★「数と式」において、式の意味を読み取り、説明する力に課題が見られます。

理科

※小学校は全国と比べて低い正答率となった。
 中学校は「知識」の問題で全国と比べて低い正答率となったが、「活用」でわずかに高い正答率となった。

学校種	問題別	全体	領域別			
			物質	エネルギー	生命	地球
小学校	主に「知識」	▲	○	▲	▲	△
	主に「活用」	△				
		全体	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域
中学校	主に「知識」	△	△	△	△	△
	主に「活用」	○				

小学校理科 ☆成果 ★課題

- ☆理科の授業で観察や実験が好きな児童が多い。このことから自然への意欲・関心・態度や、観察、実験の技能が育っている。
- ★科学的な言葉や概念の理解を確実に定着させる必要があります。
- ★より妥当な考えを作り出すため、実験結果を分析して考察する力を育てていくことに課題が見られます。

中学校理科 ☆成果 ★課題



- ☆授業では、説明、発表の機会が多く、実験の計画を立てたり、結果から考察したりする場面が多く設定されているため、生徒の思考力や知識を活用する力がついてきています。
- ★生徒の科学的思考力をより高めるために、基礎・基本的な知識の確実な定着を図る必要があります。
- ★日常生活の中から問いを見つけたり、学んだことを日常生活と関連付けて捉えなおしたりできるよう指導を継続する必要があります。

※理科については、3年に1回の実施となっています

島田市学力向上委員会では、学力向上のために、分析結果といくつかの取組を各小中学校に示しました。

各小中学校からも「学力向上へ向けた学校の取組」を、自校の実態を踏まえて具体的にお知らせしています。これからも、島田市の子供に、確かな学力が身につけられるように努力をしていきます。

(2) 児童・生徒質問紙に関する調査結果からわかること



人の役に立つ人間になりたいと思う

自分にはよいところがある

いじめは、どんな理由があってもいけない

家で学校の宿題をしている

先生は、あなたのよいところを認めてくれている

今住んでいる地域の行事に参加している

よい傾向

力を入れていきたい

自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表する

家で、自分で計画を立てて勉強する

ボランティア活動に参加する

地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んだりする

地域や社会をよくするために何をすべきか考える

新聞を読む

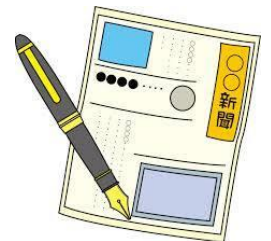
(3) 学校質問紙に関する調査結果からわかること



引き続き次の3点を意識して、子供が学びを実感できるような授業を目指します。

- ①目標（めあて・ねらい）をはっきり示す。
- ②課題解決のための話し合い活動を取り入れる。
- ③授業の最後に、子ども自身が、何を学んだのかを理解できる振り返りの時間を確実に設定する。

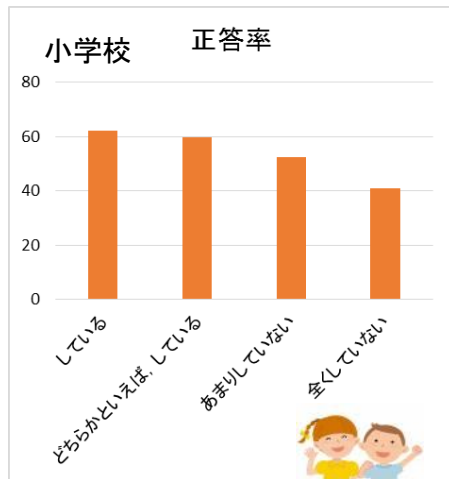
学校教育活動全体の中で、子供たちに将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を充実させていきます。また、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を多くしていきます。



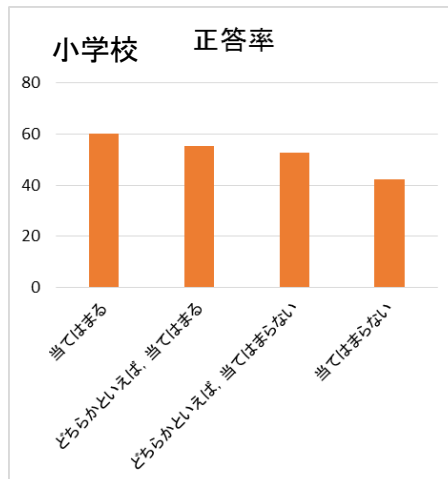
3 保護者のみなさまへ

昨年度と同様に、家の人と学校での出来事について話すことがある子供の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。また、人の役に立つ人間になりたいと思っている子供や、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある子供も平均正答率が高い傾向が見られます。

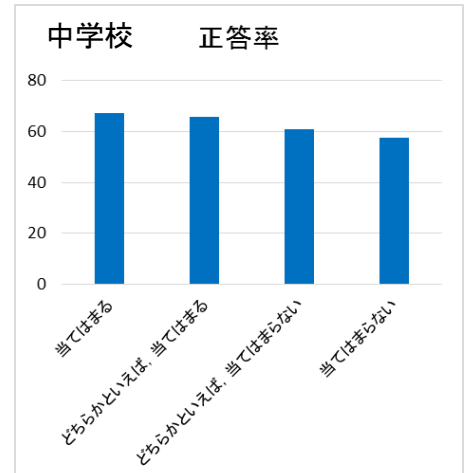
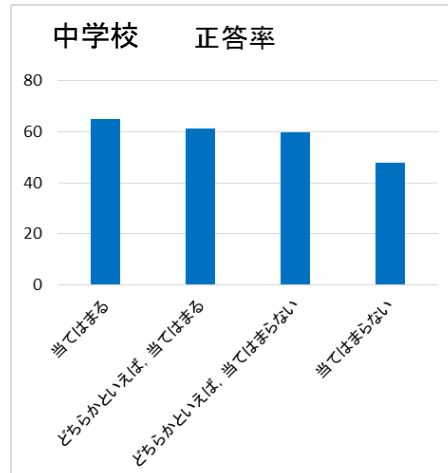
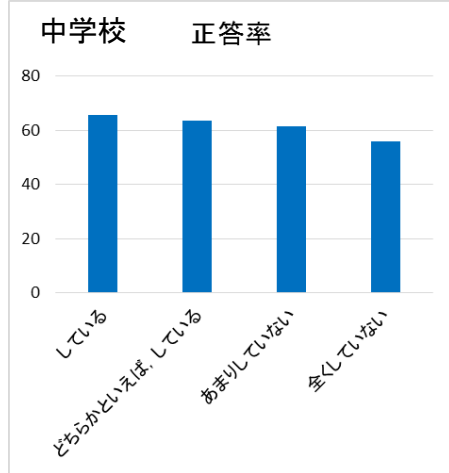
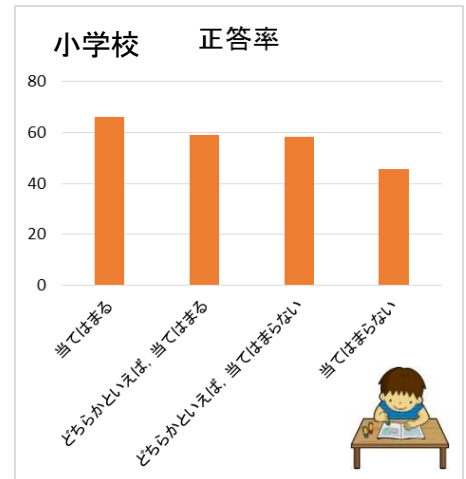
「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」平均正答率との関係



「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」平均正答率との関係



「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」平均正答率との関係



- ◇地域の行事やボランティアなどで地域の様々な方と触れ合う機会や社会で起こっていることについて話す機会をつくりましょう。
- ◇日頃から、子供の夢や将来のことについて話す機会をつくりましょう。
- ◇家庭学習では、自分で計画を立て、教科書やノート等を使って、授業で学んだことを復習したり、予習をしたりする習慣をつけましょう。
- ◇「ほめて伸ばす」「認めて伸ばす」ことを心掛けていきましょう。